

# 人権コラム 心、豊かに

## ◆ 「咸く宜し」の気持ち

江戸時代、廣瀬淡窓師が開いた私塾「咸宜園」。日田で生まれ育った人なら必ず耳にしたことがある言葉でしょう。

咸宜 = 咸く宜し（ことごとくよろし）とは、「すべてのことがよろしい」という意味で、門下生一人ひとりの意思や個性を尊重する教育理念を表しています。

私たちが生きる地球では、人種・国籍・言語・宗教・年齢・性別などの「違い」を持って人々は暮らしています。その違いのひとつである「性別」は、単純に男・女で分けられるものではない。ということについて、昨今では多くの人に認識と理解が浸透してきたようです。

人の性には、「心の性」と「身体の性」、そして、「恋愛対象の性」があります。心と身体の性が必ずしも一致するとは限らず、恋愛の対象も「異性」「同性」「両性」に分かれます。

その中で、多くの方は「心の性」と「身体の性」が一致し、恋愛の対象が「異性」に分類されます。日本では、この分類に含まれない人が13人に1人いると言われ、その人たちを「性的マイノリティ（性的少数者）」と呼びます。

この少数者には、心と身体の性の不一致に対する強い違和感と苦痛に悩まされている状態の“性同一性障害の人”、“自分の性を決めない人”、“恋愛感情を抱かない人”などが含まれます。

また、同性や両性が恋愛対象という人もこの少数者に含まれますが、これまでそのような恋愛観を持つ人は、性的疾患などの疑いが持たれていました。しかし、今では医学や心理学のうえでも、そうではないことが判明しています。

誰もが自分らしく生きることが可能な社会の実現には、一人ひとりが多様な性について理解することが大切です。すべての性が尊重され、性の多様性を認め合う、「ことごとくよろし」の心を育む行動が求められています。